

福岡大学病院における第一例目の 生体肝移植レシピエント手術の麻酔経験

平井 孝直¹⁾ 仁田原慶一¹⁾ 奈良崎志保¹⁾
安元 正信²⁾ 池田 静佳²⁾ 藤本 実¹⁾
岩切 重憲¹⁾ 若崎るみ枝¹⁾ 香取 清¹⁾
真山 崇¹⁾ 飯星 真理²⁾ 楠本 剛¹⁾
杉 恭之¹⁾ 石田 美紀²⁾ 生野慎二郎¹⁾
松永万鶴子²⁾ 比嘉 和夫¹⁾

1) 福岡大学医学部麻酔科学

2) 福岡大学病院手術部

要旨：われわれは、福岡大学病院での第1症例目の生体肝移植の麻酔を経験したので報告する。症例は60歳男性で、慢性C型肝炎による肝臓に対する治療を繰り返していた。麻酔は、イソフルラン、フェンタニルを用いた全身麻酔で行った。無肝期は5時間42分であり、手術時間は20時間5分、麻酔時間は22時間35分であった。術中の出血量は8,550gであり、総輸血量は濃厚赤血球液18単位、新鮮凍結血漿85単位、濃厚血小板液20単位であった。術中に大きな循環変動はなかった。

索引用語：生体肝移植, レシピエント, 全身麻酔, 輸血